ことばのひろば シリーズ

ことばって　おもしろい
ことばが　つながる　うたになる
ことばが　たくさん　あつまれば
おはなし　うまれる　よみたくなる
ここは　ことばのひろばだよ

はやくちことばや語呂合わせ、かぞえうたや回文（どちらから読んでも同じことば）などの「ことばあそび」。
このシリーズでは、小さな頃から自然に、ことばと音に親しんでもらいたいと、ハンディ・サイズの絵本を作りました。
毎日のくらしの中で、同じ音ではじまることば探しをしたり、しりとりをしたりして、いっしょに遊ぶひとときが、子どもの心と頭をやわらかにします。
ゆたかな「ことば体験」を積み重ね、いきいきと自分を表現出来る子へとみちびく、ファースト・ブックとして、おすすめです。

<本シリーズの特徴>
1：シンプルな文章と絵で、初めて自分で絵本を読む子どもにぴったりのサイズ。
2：音からひろがるイメージ、語呂合わせや早口ことば、回文など、ことば遊びの楽しさいっぱい！
3：「ことばって、おもしろいな。たのしいな」という感覚をそだて、うたや物語の世界へ入っていく、最初の一歩となる絵本。
4：人気の絵本作家やイラストレーター、児童文学作家や詩人によるユーモアあふれる作品ばかり。

わたしたちがおすすめします！

本シリーズで編集協力していただいたおふたりにお話をうかがいました。

西内ミナミさん

ことばのリズムやそこから紡ぎだされるイメージの展開を大切に、と心がけて創作にとりくんできました。また、子育てや地域の文庫活動を通して、絵本がもつ「ことばの力」が子どもの感性を育ててゆく姿を目の当たりにし、確信したものです。

この**ことばのひろば**シリーズは、その形もコンパクトで価格もコーヒー１杯ほど！　手にしやすいので、くり返し読みあって楽しんでいるうちに、みんな、ことばの達人になっちゃいますね。

本多慶子さん

長年、子どもの本に関わってきて思うのですが、その原点は「ことば」だということ。上質な絵とのコラボレーションによって生み出された絵本を、家族や身近にいる園の先生など、温かな人の声で読んでもらうことにより、子どもはごく幼い時期からことばに親しみ、成長していくものなのです。

この**ことばのひろば**シリーズは、どれも、おもわず声にだして唱えたくなるリズミカルな展開で、おとなと子どもとが一緒に楽しめますね。

西内ミナミ（にしうち　みなみ）
子どもの本作家。大学在学中より児童文学の創作を始め、卒業後はコピーライターとして広告会社に勤務。65年に堀内誠一氏のすすめにより書いた絵本「ぐるんぱのようちえん」（福音館書店）がロングセラーとなる。70年よりフリーとなり創作に専念。絵本『おもいついたら そのときに！』（こぐま社）、幼年童話『こぶたのぶーぶ』（福音館書店）など作品多数。長年にわたり家庭・地域子ども文庫活動や図書施設拡充など、子どもの読書推進にも携わっている。

本多慶子（ほんだ　けいこ）
元・福音館書店編集者。「ぐるんぱのようちえん」「わらべうた」などの「こどものとも」、「いやだいやだの絵本」、「ピーター・ラビットの絵本」シリーズなどを編集。その後、フリーとなり多数の絵本を企画・編集した。ほかに「子どもの本 1920 年代展」「クヴィエタ・パツォウスカ展」「プラティスラヴァ世界絵本原画展」などの絵本原画展の図録も手がけた。現在も子どもの本の企画編集や講演活動を行い、広く子どもの本の普及に関わっている。